

教育相談を活用し自らの進路を主体的に選択できる 生徒の育成：キャリアガイダンス（進路相談）の充 実を目指して

著者	風見 章
雑誌名	洗足学園音楽大学教職課程年報
号	4
ページ	1-12
発行年	2020-03-01
ISSN	2433-9245
URL	http://id.nii.ac.jp/1493/00001164/



教育相談を活用し自らの進路を主体的に 選択できる生徒の育成

—キャリアガイダンス（進路相談）の充実を目指して—

風 見 章

Akira Kazami

I 研究の構想

(1) 研究の背景

東京都教育庁総務部教育情報課がまとめた『平成29年度における児童・生徒の問題行動・不登校の実態について』という調査において「平成29年度都立高等学校中途退学者の状況」から一年間に都立高等学校を中退した生徒は全日制普通科・専門学科・総合学科と定時制を合わせて2318人であり、在籍生徒数全体の10.3%を占めている。その理由は「学校不適応」が883人と一番多く、次の理由としては794名が「進路変更」を理由としている。

これは、高等学校進学が当たり前の風潮から、生徒は「みんなが行くから自分も」。保護者は「どこでもいいから高校へ」。そして教師も「とにかく進路先を」という進路選択がなされ、「入りたい学校」選択ではなく、「入れる学校」選択を行った結果がうかがえる。

かつて社会的に大きな批判を受けた「偏差値のみによる進路指導」こそ姿は消したが「内申点だけによる進路先選択」はいまだに行われている。そこで、学習成績中心の進路指導から「生徒自らが主体的に進路を選択する」キャリア教育の充実が求められている。

(2) 研究のねらい

中学校における進路指導は、学習成績中心の進路指導に偏り、「将来の生き方」に関わった主体的な進路選択能力の育成が不足していた。

これからの進路指導、キャリア教育は全教育活動を通じた主体的な学習活動、体験活動などを基に、生徒が自らの希望や個性から将来の「豊かな生き方」を考え、進路を主体的に選択できることが求められる。そして、同時に生徒一人一人応じたきめ細かい支援が必要になる。

本研究では、教育相談の手法を活用し、生徒個々の適正や能力に応じたキャリアカウンセリングの在り方を追究した。

(3) 研究のねらい

- ① 主体的な進路選択能力を育成するためには、自己の個性や適性を理解させることが必要である。
- ② 教育相談的手法を活用した進路相談を充実させることは、個に応じた進路指導につながる。
- ③ キャリアカウンセリングは、自己理解を深め、進路選択能力を高めるための支援活動になる。

(4) 研究の構想

進路指導における現状

<p>(社会的背景)</p> <ul style="list-style-type: none">・高学歴社会・高等学校全入化・高校中途退学者数の固定化・学習成績偏重・AI (人工知能の発達)・終身雇用制の変化・転職の社会的認知度の向上	<p>(生徒の実態)</p> <ul style="list-style-type: none">・目先にとらわれた進路選択・主体的な進路選択意識が希薄・「入れる学校」の選択・夢と希望が希薄したままの進学 <p>(学校の実態)</p> <ul style="list-style-type: none">・確定させたい進路先・進学率の向上を学校の特色に
---	--

進路指導における教育課題

- ・豊かな生き方をめざす教育への転換
- ・主体的な進路選択能力の育成
- ・キャリア教育の改善・充実
- ・啓発的な体験学習を充実させるために地域や家庭との密なる連携

研究主題

「自らの進路を主体的に選択できる生徒の育成」

～教育相談的手法を活用したキャリアカウンセリングの充実を目指して～

① 基礎研究

キャリア教育の基礎理論

教育相談の基本

自己理解についての先行研究

② 調査研究

・質問紙による調査

生徒の進路選択に関する意識

進路相談対象者や相談内容についての実態

平成23年 杉並区立中学校10校2年生 891名対象

③ 実践研究

・学級活動における道徳授業「主に自らに関する項目」と関連したキャリア教育。

- ・自己理解に基づいた職業適性を考えさせる。
- ・主体的な進路選択を意識させるキャリアカウンセリングの実施

Ⅱ 基礎研究

(1) キャリア教育とは

教育基本法第2条2項（教育の目標）

個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んじる態度を養うこと。

これは平成29年に告示された学習指導要領「総則」にある『キャリア教育の充実（第1章第4の1の(3)）』の中に「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら」「生徒が自らの生き方を考え」「主体的に進路を選択することができるよう」とある。ここからは、生徒が自己の将来とのつながりを見通しながらその後の生活によりよく適応し、自らが進歩・前進することにつながり「自己実現」の基本を示していると考ええる。

学校教育法第2章第21条の10

職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

ここからは、社会における必要な職業について、①基礎的な知識と技能 ②勤労を重んずる態度 ③個性の理解 ④個性に応じた進路選択能力の育成が目標とされている。

「中学校学習指導要領 第1章 総則 第4の1(3)」

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科（各教科・科目）等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自らの生き方（自己の在り方生き方）を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

これは自己の将来の①生き方を考える ②社会的・職業的な自立能力の育成 ③特別活動を要とし、全教育活動を通して進路指導を行うという面から、従前の進路指導とは一線を画しているといえる。

このことを踏まえ、生徒が目先の進学や就職ばかりにとらわれることなく、自己の個性や適性を理解することにより、将来への可能性を自覚し、その目標に向かって進んでいこうとする意欲や態度を育成

することが大切だと考えられる。

(2) 進路指導の諸活動

進路指導は、従来より6つの活動を通して実践されるとされている。ここでは、文部省『進路指導の手引—中学校学校級担任編(三訂版)』(平成6年)に基づいて文部科学省が上記資料として引用した。

- ① 個人資料に基づいて生徒理解を深める活動と、正しい自己理解を生徒に得させる活動
生徒個人に関する諸資料を豊富に収集し、一人一人の生徒の能力・適性等を把握して、進路指導に役立てるとともに、生徒にも将来の進路との関連において自分自身を正しく理解させる活動。
- ② 進路に関する情報を生徒に得させる活動
職業や上級学校等に関する新しい情報を生徒に与えて理解させ、それを各自の進路選択に活用させる活動。
- ③ 啓発的経験を生徒に得させる活動
生徒に経験を通じて、自己の能力・適性等を吟味させたり、具体的に進路に関する情報を得させたりする活動。
- ④ 進路に関する相談の機会を生徒に与える活動
個別あるいはグループで、進路に関する悩みや問題を教師に相談して解決を図ったり、望ましい進路の選択や適応・進歩に必要な能力や態度を発達させたりする活動。
- ⑤ 就職や進学等に関する指導・援助の活動
就職、進学、家業・家事従事など生徒の進路選択の時点における援助や斡旋などの活動。
- ⑥ 卒業者の追指導に関する活動
生徒が卒業後それぞれの進路先においてよりよく適応し、進歩・向上していくように援助する活動。

(文部科学省 中学校キャリア教育の手引き より)

(3) 進路相談

① キャリアカウンセリングとは

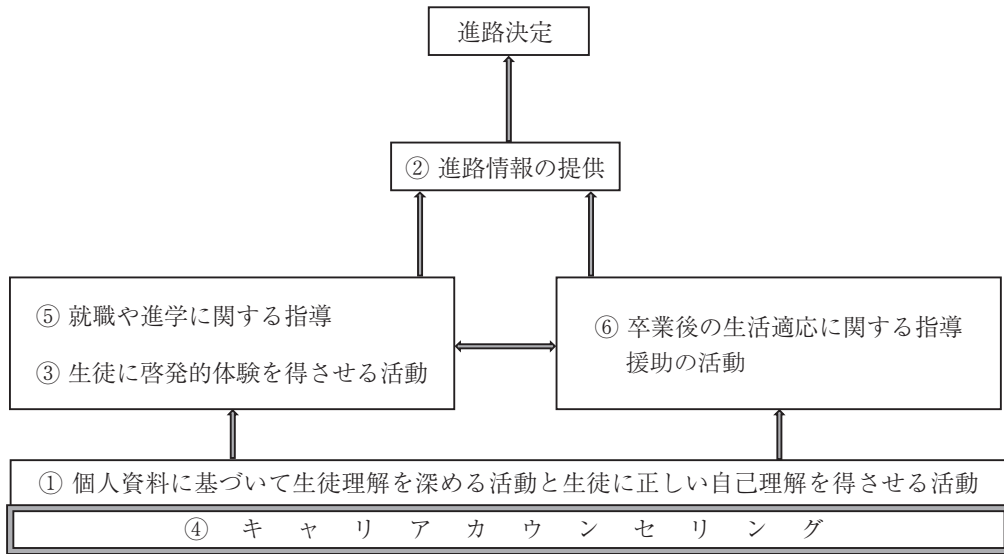
キャリアカウンセリングは、生徒が自己理解を深め、進路への関心を高め、自己の進路計画を立て進路選択の能力を伸長するなど、自己の将来の生活における自己実現のための進路選択・決定能力の育成を促進するための教育活動である。したがってキャリア教育の活動と密接な関連がある。

② キャリアカウンセリングと教育相談

進路における様々な問題は、親子関係、家族問題、生徒の心理的葛藤、学習成績や希望等、様々な要因が複雑に絡みあって表面化した問題である場合が多い。また、多くの場合一定の期間内に結論を出し解決しなければならない。さらに客観的情報や現実の世界についての適切な知識を必要とし、それらを生徒が自らの進路問題と結びつけていくのを援助しなくてはならない。

そのため、キャリアカウンセリングは一般的な教育相談、カウンセリングの中でも難しいとされている。しかし一般的にはカウンセリングというと不登校や学校不適応など情緒的課題をもつ生徒を対象にした心理治療の一技法とみられている。また、キャリアカウンセリングは進学先や就職先の振り分けなどを生徒に提示することを考えると、一般的なカウンセリングとは大きく乖離する。

しかし、「職業的発達段階論」を提唱し、日本の進路指導、キャリアカウンセリングに多大な影



(図1 キャリア教育とキャリアカウンセリングとの関連図)

響を与えたD. スーパー博士（アメリカ）はカウンセリング専門の心理学者である。また進路指導の専門家として来日した学者もみなカウンセリングの専門家であることから、キャリアカウンセリングと一般的なカウンセリングの関係は密接である。

(4) 教育相談の技術

教育相談は、個人相談やグループ相談を通して進路への関心や自己理解を深め、進路選択能力や適応能力を高めるための援助活動である。

このため、教師は次の点を踏まえ教育相談に当たることが必要である。

- ①教育相談に不可欠な条件は人間関係の樹立である。
- ②教師は、受容、理解的態度、誠実な態度を心がける。
- ③教師は、傾聴、指示、繰り返し、明確化、リードなどの言語によるコミュニケーションの技術を身につける。
- ④教師は、問題の明確化、問題の吟味と確認、方策の決定、実行、成果の評価という相談構成を常に念頭におく。
- ⑤教師は、他の機関や専門家と連携したり相談をそれらに委ねたりすることも考えなくてはならない。

五

(5) 教育（進路）相談の種類

教育相談の時期や対象によって以下のように分類できる。

教育（進路）相談の時期

- ①学校行事予定などの計画に設ける ⇒ 定期教育相談
- ②生徒や保護者の希望に応じて行う ⇒ 随時教育相談

- ③教師側からの必要に応じて行う ⇒ 呼び出し教育相談
- ④生徒との接触の機会をとらえて行う ⇒ チャンス教育相談

相談の対象

- ①生徒一人一人を対象にする ⇒ 個人教育相談
- ②複数の生徒を対象にする ⇒ グループ教育相談
- ③生徒と保護者を同時に対象にする ⇒ 三者教育相談

Ⅲ 調査研究

(1) 調査の構想

①ねらい

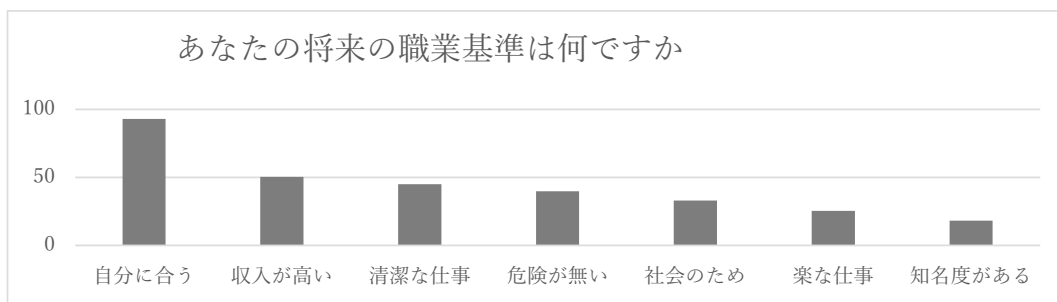
生徒の職業選択及び進学に関する意識や相談対象者・相談内容を探る。

平成23年 杉並区立中学校10校2年生 891名対象

②内容

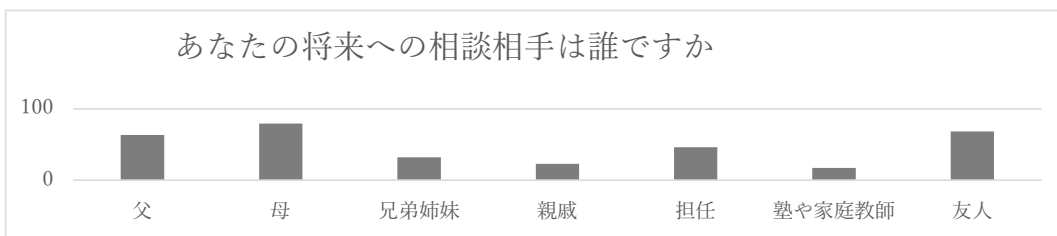
進路選択基準や選択上の不安。キャリアガイダンスに関する相談相手や、どのような内容を相談したのか等を実際に調査する。

(2) 調査の結果



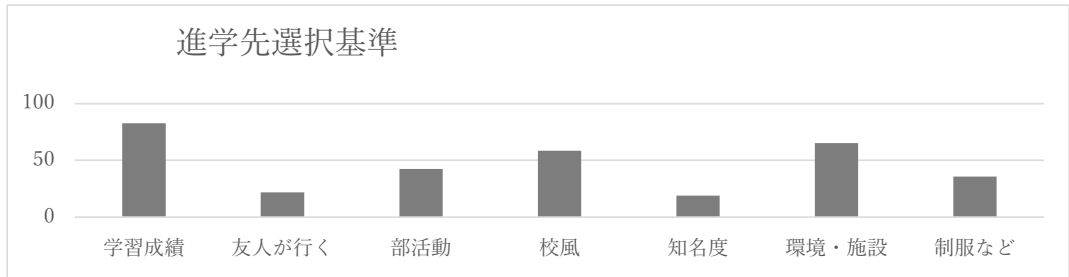
この調査からは「生徒は自分の個性・適正」を重視していることが把握できた。

六

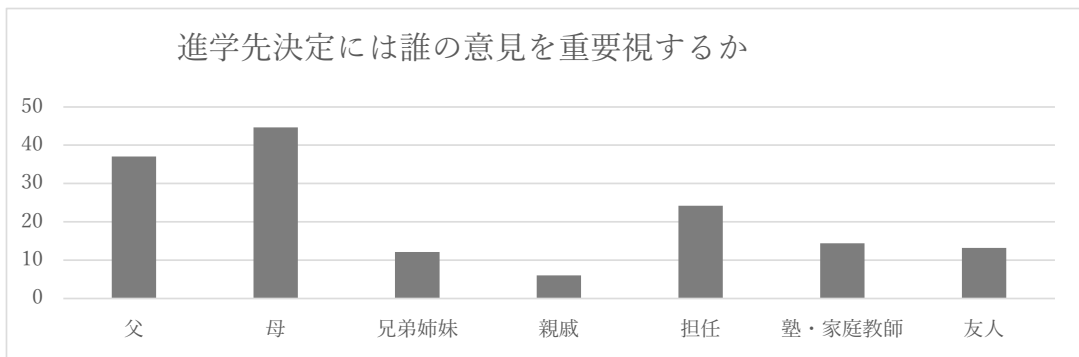


この調査は「将来」つまり「目先の進路」ではなく「遠い将来について」の相談相手を探った。結果からは「父」「母」「友人」が上位三位となり「担任」はその次になった。学校の教師は「遠い将

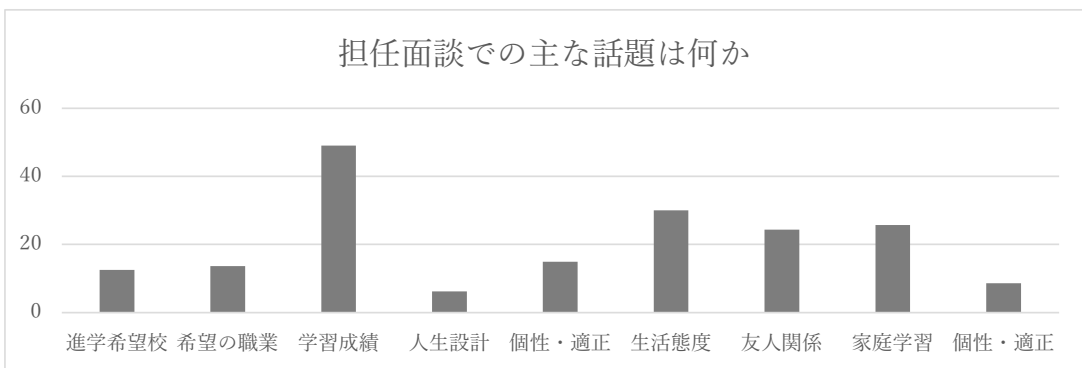
来」への相談相手にはなっていないことがわかった。



中学卒業後の進路先は「学習成績」を第一にしている。このことから「行ける」学校を選択していることが把握できた。



この結果からはやはり担任は「母」「父」の次に位置している。このことから「目先の将来」について教師は相談相手になっていることが把握できた。



調査対象は2年生であるが、すでに「学習成績」に偏ったカウンセリングが行われており、生徒の「個性・適正」についての話題は非常に少ない。生徒は将来を考えたときに「自分に合う」職業を第一選択としている。しかし、その自分の「個性・適正」が理解できないまま「学習成績」のみでキャリアカウンセリングが実施されている課題が確認できた。

(3) 調査のまとめ

生徒は、自分の将来の職業選択を考える上で「自分に合っている」職業を第一選択としている。しかし、合うか合わないかの基準である自己理解がなされていない状態である。また、その自己理解もどういう形で理解したらいいのか、もわからないまま将来への道を進んでいる。

また、相談対象者も両親が大きな比重を占めている。一方、「遠い将来」への相談相手にはなっていない担任は「進学」相談には両親に次ぐ回答率であった。また担任との相談内容は「学習成績」中心の話題がほとんどであり、「個性・適正」や「将来の人生設計」については非常に低いという状況が明らかになった。

これらの結果から、学校におけるキャリア教育では「学級活動」において「自己理解」を第一に実施し、「特別活動」や「道徳」を通じて「社会との関わり」などについての理解をさせる。そして「総合的な学習の時間」における職場訪問や職場体験学習での啓発的体験と並行してキャリアガイダンスの実施が重要であると考ええる。

IV 実践研究

(1) 実践研究の概要

①学級活動において「キャリアガイダンスカード（自己分析票）」の記入を行う。

キャリアガイダンスカード（自己分析票）を使用し自己理解に活用する。また以下の3つの視点を定め、生徒の主体的な進路選択を援助することとした。

(ア) 自己理解を促す。

⇒自分の現在の性格や興味関心等を再認識し、進路目標を考えさせるための参考にする。

(イ) 自らの生き方を第一に考えさせる。

⇒「自分はどんな生き方をしたいのか」を整理し、その考えを基に目標を設定するための援助とする。

(ウ) 個性を多面的に考えさせ、進路目標を広く捉えさせる。

⇒進路目標をすでにもっている生徒に対して、自分の個性を多面的に考えさせ、一つのことに限定しない、広い視野・視点から目標をもつように助言する。

自己分析票

2年（ ）組（ ）番 氏名（ ）

④は「あてはまる」 ③「ややあてはまる」 ②「ややあてはまらない」 ①「あてはまらない」

自分の今の考えに近い番号に○をつけてください。

- | | | | | | |
|-------------------|---|---|---|---|----------------|
| 1 多くの人と共同でする仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 一人でする仕事が良い |
| 2 主に頭を使う仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 主に身体を使う仕事が良い |
| 3 主に屋内の仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 主に屋外での仕事が良い |
| 4 人に会うのが多い仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 人に会うのが少ない仕事が良い |
| 5 変化のある仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 決まった仕事をする方よい |
| 6 人を相手にする仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 物を相手に仕事が良い |
| 7 時間が自由にとれる仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 時間が決められた仕事が良い |
| 8 技術的な仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 事務的な仕事が良い |
| 9 生産に関した仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 販売に関した仕事が良い |
| 10 資格のいる仕事が良い | ④ | ③ | ② | ① | 資格のいらない仕事が良い |

◎自分で「自分の力」をどう考えていますか？

次の項目で、自信があると思う場合 A、普通 B、自信が無いと思う場合 C を書き入れてください。

健康（ ） 体格（ ） 記憶力（ ） 表現力（ ） 敏捷性（ ）
 持久力（ ） 理解力（ ） 計算力（ ） 創意工夫（ ） 手先の器用さ（ ）
 書記的能力（ ）

◎自分の性格を、どう考えていますか？

積極性（ ） 責任感（ ） 指導性（ ） 協調性（ ） 公共心（ ）
 明朗さ（ ） 粘り強さ（ ） 気分安定（ ） 社交性（ ）
 心のおおらかさ（ ） きちんとした生活習慣（ ）

この、自己分析票を実施した感想を生徒から集めた。

生徒は今まであまり考えてなかった内容項目にも、日頃の生活習慣や生活状況から冷静に振り返り、自己分析の第一歩としてとらえたことが、事後アンケートから確認できた。

(生徒の感想)

- ・自己分析票をつかって色々考えた。日常気にしなかったことを振り返ることができた。
- ・自分は何が得意で、何が不得意だったのか改めて確認することができた。
- ・漠然とした将来の夢はもっていたが、自己分析票で自分の性格を考えたら、その夢は難しいのかなと感じた。また改めて将来の夢を考えたい。
- ・この自己分析票で自分を振り返ったが、自分のマイナス面がよくわかった。これから、そのマイナス面を改善できるためにどうしたらいいのか、先生に相談したい。

(考察)

上記のような生徒の感想が確認できた。大きな成果としては「自己分析を行ったが、この先どうした

らしいのかわからなくなった。先生に相談したい」という意見が多かったことである。

日常、教師と生徒は学習成績や学習態度の話題になることが多い。しかし、それは時にはネガティブな関係になる事が多く、前進的な内容とはほど遠くなりがちである。この自己分析票を用いて冷静に、時には生徒教師共に第三者的な視点から話し合いができた。

(1) キャリアカウンセリングの概要

① 2年男子

担任との面談

7月実施

(長所) コツコツ努力する (短所) 頑固 意地っ張り
(趣味) サッカー観戦 (特技) 特になし (興味関心) ゲーム
[将来の夢] プロサッカー選手 (理由) 小さいときからサッカーをやっていた。今もクラブチームのレギュラーである。

キャリアカウンセリングの状況等

小さいときからサッカーを始め、現在はクラブチームでレギュラーポジションを与えられ活躍している。サッカー部が盛んな私立高校への進学を希望している。この生徒に、「プロサッカー選手になる根本の理由を聞くと「サッカーが好きだから」そして「一流サッカー選手になると収入が増える」という理由を挙げた。

そこで、サッカーが好きならばプロサッカー選手しかサッカーに関係する仕事はないのか?と考えさせると ①地域サッカークラブチームの指導者 ②中学や高校のサッカー部の顧問 ③サッカーボールなどを作るメーカー ④サッカーの審判員 というものあることが理解できた。

プロサッカー選手の夢だけを追うのではなく、広い視野で進路選択を考えさせることができた。

また、プロ選手は社会からの厳しい目で見られることもある。プロ選手になるために今から生活態度も真剣に考えることが必要であることを確認できた。

② 2年女子

担任との面談

7月実施

(長所) 無記入 (短所) 短気
(趣味) 音楽鑑賞 (特技) 絵を描くこと (興味関心) アニメ
[将来の夢] 声優 (理由) アニメが好きだから

キャリアカウンセリングの状況等

アニメが好きなおことから声優を夢としている。具体的に声優オーディションなどの情報は収集している。しかし、具体的に声優になるための情報は何ももっていなかった。声優以外の希望はないという返答である。そこで、自己分析票を基に性格や趣味などを再確認した。その結果「絵を描くことが好き」ということからイラストレーターをはじめ、舞台芸術の大道具、小道具、音響、照明などという演出関係の仕事まで考えられるようになった。

③ 2年男子
副担任との面談
8月実施

(長所) 無記入 (短所) 怒りっぽい
(趣味) 外出すること (特技) 物を作る (興味関心) 走る物、特にレーサー
[将来の夢] F1レーサーかギャンプラー

キャリアカウンセリングの状況等

全然関連のないレーサーとギャンプラーという将来への夢をもっている男子生徒。その理由を確認すると「夢」を追いかけていきたいので、このような希望となったことが理解できた。そこで、自分の性格や趣味を基に考えると「物作り」にも興味があることが把握できた。両親からは「夢みたいな事ばかり言っているのではない」と説教されているが、このキャリアカウンセリングを通して、工業高校への進学も視野に入れることができた。

V 研究のまとめと今後の課題

今回の研究における進路相談（キャリアガイダンス）は、教育相談の手法を用い、生徒の主体的な進路選択意識を高めることを目標として取り組んだ。そのためには、学級活動において主体的な進路選択するための必要性や自己理解の必要性をも考えた。また、それに並行して学級活動時に生徒が記入した進路相談カードから、生徒の進路に対する意識の視点を設け教育相談（進路相談）を実施した。

生徒は「自分に合った仕事」「自分が生かせる仕事」に就きたいが「何が自分に合うかわからない」という気持ちを多く持っていた。また、中学2年生だから将来のことを考えるのは早いと考え、そんな将来のことより目先の中学卒業後の進路を考えるのが先という意識が強いことも分かった。最終的に「これからの進路を「どう考えていったらいいのか分からない」という不安を持っていることが進路選択意識に大きな影響を与えている様子である。

これらのことから教育相談（進路相談）を行った。その結果、自己の個性を再確認し、それを基にした将来の進路の考え方も一つであることが理解できた。また、自分の「生き方」を基に新たな進路情報を得ることによって広い視野や観点から自分の進路について再検討を始めることができた。

現在、啓発的体験から職業体験などが行われているが、事後、体験した内容の感想や振り返りを行うだけで終わっている。職場体験や職業体験などの後に、キャリアカウンセリングを行い、自らの生き方と重ねた振り返りを行うことにより「将来への夢と希望」をより具体的に考えられると考える。実際の体験を通じたキャリアカウンセリングは、ただ生徒の悩みや不安を聞き取るだけでなく、視点を定めて実施することによって「主体的な進路選択意識」を育成する上において有効であることがわかった。

今回は2年生を対象に実施したが、1年生では「総合的な学習の時間」として実施されている職場体験後、2年生では職業体験実習や上級学校訪問の前後。そして3年生では具体的な進路決定時期等のように3年間を通して行われることが必要であると考え。そのためには教育課程への位置づけや、教育相談部に進路指導対応の組織作りを図り、生徒の実態に応じた教育相談の在り方を工夫することが課題である。

教職課程年報 第4号 (2019年度)

(参考資料)

平成29年度 「児童生徒の問題行動・不登校の実態について」東京都教育委員会

平成6年度 『進路指導の手引—中学校学級担任編(三訂版)』文部省

平成26年度 中学校キャリア教育の手引き 文部科学省